

# あしよろ・ハードサポート通信

## ◆ 乳房炎予防・・・牛の身体を汚さないこと



乳房炎は、原因菌が乳頭口から乳房の中へ入り込んでしまうことから始まります。

コーンズ・エージ社が5月に帯広で開催した乳房炎管理セミナーで、講師のアンドリュー・ジョンソン博士は「乳質は、乳牛と飼養環境から始まる」とし、汚れた環境にいる牛ほど、新たに乳房炎に感染するリスクが高くなると述べました。



上の写真は、牛が横臥しているときの乳房と後ろ足の様子です。ジョンソン博士は、後ろ足や蹄が汚れているのは問題だと話していました。乳頭口のすぐ近くにある足や蹄に、乳房炎の原因菌がべったりくっついていると思うと…確かに、汚れているのは好ましくありません。



牛体、足を汚さないためのポイントのひとつは、2枚目の写真のように、清潔な敷料をしっかりと敷くことです。近年は敷料価格が高騰し、やむを得ず充分量を確保できない農場が増えていますが、敷料を節約したせいで乳房炎が増えてしまったケースもあるように感じています。敷料にかかるコストや労働力と、乳房炎の発症状況、治療や手間を比べて、いまの敷料の状況で本当にOKなのかどうか、再確認していただけたらと思います。

3枚目はフリーストール牛舎での、身体がきれいな牛です。フリーストール牛舎ではベッドの上のネックレールやブリスケットボードの調整で、繋ぎ牛舎では適切なカウトレーナーの設置で、糞尿が落ちる位置をある程度コントロールできる場合があります。気になることがありましたら、どうぞご相談ください。

また、乳房炎の原因菌は乾いた環境が苦手です。特に湿度が高い牛舎、空気がこもりがちな牛舎では、換気扇は季節を問わずに回し、しっかりと換気をしましょう。

そのほかにも、消石灰を乳房が肌荒れしない程度に少量ずつ牛床に撒くことで、原因菌の増殖を抑えることができます。石灰を撒いた上に新しい敷料をかぶせると、いくらか肌荒れしづらくなります。(石灰を扱う際は、目に入らないように注意して作業してください。)

#### ◆ 牛体をきれいに・・・農場での取り組み



どれだけ牛体を汚さないための牛舎管理をしても、牛の身体は汚れます。

右の写真は、ある農場のパーラーに置いてあったブラシです。乳房にブラシをかけ、汚れを落とし、搾乳を始めるそうです。牛の身体を汚さないような管理をし、その上で「汚れた身体はきれいにしよう」という気持ちが伝わってきます。下の写真は、ここの牛の乳房と足の様子です。



こちらだけではなく別の農場でも、繋ぎ牛舎に置いてある搾乳ワゴンにブラシがぶら下がっているのを見かけました。搾乳中、ふと時間が開いたときに、いつでもブラッシングできるように準備されているのだなと思いました。

牛はブラッシングが好きな動物です。搾乳中にブラシをかけるとホコリっぽくなる欠点がありますが、牛のストレス解消やきれいな牛体を保つための良い方法のひとつです。

手の届く場所にブラシを置いておくこと、気が向いたらブラシをかけること。おすすめです。

足寄町内では、放牧地で草を食む牛たちの姿があちこちで見られるようになりました。今年は晴れ続きで、順調に畑作業が進んでいる様子です。そのかわり雨が少なく、干ばつ気味だと心配されている声も聞こえます。例年以上にタンポポばかりが目立つ畑もあるようです。今年の圃場の草の伸びや、雑草の混入具合はいかがでしょうか。

まもなく始まる収穫、あせらずあわてずの安全作業でお願いいたします。 久富

連絡先 ・ JA 営農部 (電話)  
 ・ 村上：(携帯) 090-6264-6571、(Email) murakami@herdsupport.com  
 ・ 久富： (Email) hisatomi@herdsupport.com  
 ・ ハードサポート(株)：(FAX) 011-261-8101